

「フォースライタ」で書き込む前に以下のものがが必要です。

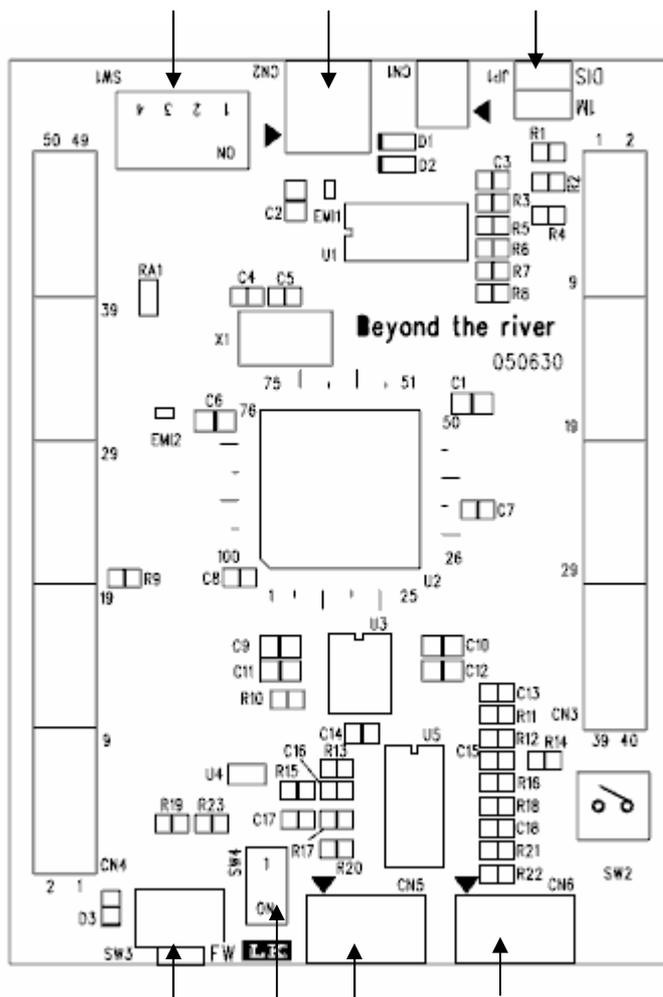
1. CPUボード「BCH83052」
2. 電源ケーブル(CPUボードに添付しています)
3. 電源(5V、200mA以上)
4. Eケーブル
5. 「フォースライタH83052」がインストールされている、RS232Cをもつパソコン
6. 書き込み用のプログラム

「BCH83052」CPUボードの設定

本例ではDIP-SWはモード6(外部RAMアクティブ)で1番のみON。

電源ケーブル「赤」は+5Vに、「黒」はグラウンドに接続。

J P1は1Mをショート。



トグルスイッチは書き込み側「右」に倒します。

LOCKスイッチはOFF(ON側でない)。

Eケーブルはここに挿入します。反対側はパソコンのRS232Cに接続します。

ここはユーザーが自由に使用できるRS232Cです。

電源を入れて、電流が計測できる電源であれば40～50mA程度であれば正常です。「書き込みモード」ですので、赤いLED D3が点灯しているはずですが、点灯していない場合、以下の2点を確認してください。

1. トグルスイッチが「右」側ですか？
2. 電源ケーブルの赤が「+5V」、黒が「グランド」に接続されていますか？

「フォースライタH83052」を立ち上げます。

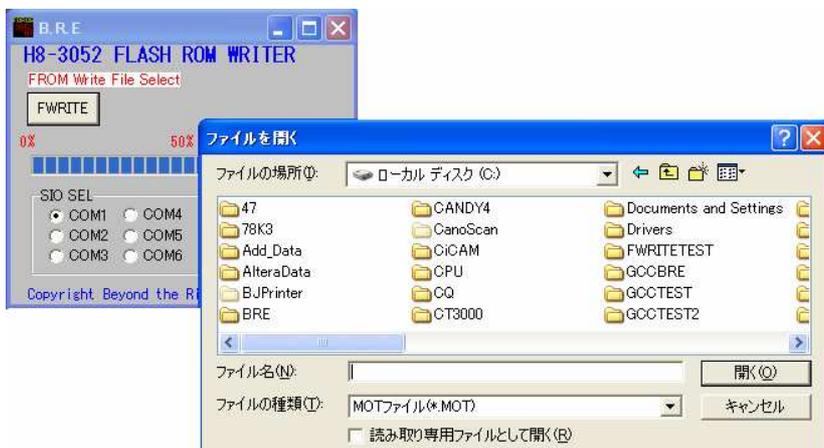


「FWRITE」をクリックして「CPUボードから応答がありません」と表示されたら、RS232C通信がうまくできない状態です。



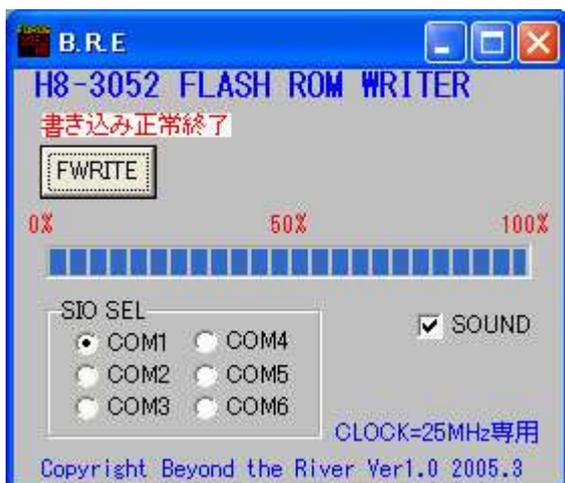
電源、「H83052」CPUボードの設定、Eケーブルの接続がOKだとすると「COM番号」が違う可能性があります。別記の「COM番号を調べる、」を参照し、再度確認してください。

正常に接続されている場合、フラッシュROM消去、内蔵RAMへのプログラムダウンロードが行われ、フラッシュROMに書き込む「ファイルを開く」画面が表示されます。



ここでは別記「HEW4によるH8-3052プログラム開発」で例として示したH83052test.motというP6をON,OFFさせるプログラムを焼いてみます。

H83052test.motファイルのありかは上記文章を参照して下さい。「H83052test.mot」をダブルクリックすると書き込みが始まります。



正常に書き込みが終了しますと「書き込み正常終了」と表示されます。また、ここが「フォース」機能の特徴ですが、**新たにプログラムが書き換えられただけでなく、書き換え後、自動的にリセットが掛けられCPUは新たなプログラムで動作しています。**

デバック中、上記設定でCPUボードに一切触れることなく、フラッシュROMの書き込み、動作が繰り返してできます。

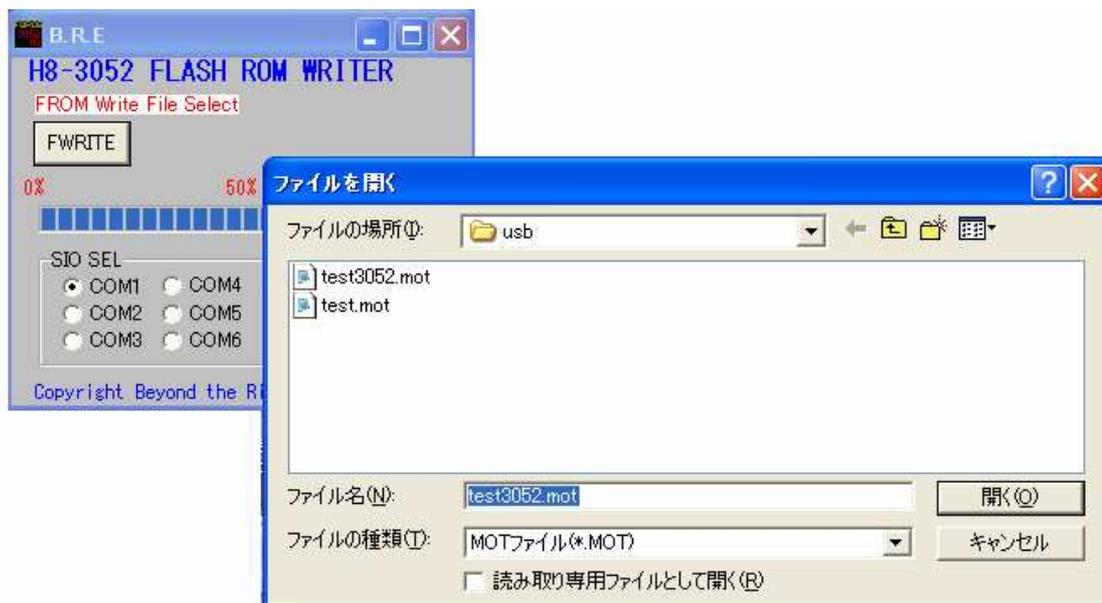
別な言い方では「フォースライター」は他のフラッシュROM書き込みソフトと違い、自動的に
動作モードからブートモードに切り替える
フラッシュROM書き込みを行う
ブートモードから動作モードに切り替える。

と3つの仕事を行っています。

この機能により従来、書き換えのたびにディップスイッチを操作したり、電源を入れたり切ったりする煩雑な、しかもプログラム開発にならば本質的に寄与しない操作からプログラマを解放したのです。プログラム開発時間も短縮することができました。

デバックが終了したらトグルスイッチを左に倒して、LOCK機能を「ON」すれば誤ってプログラムが書き換わることはありません。

「CbarによるH8-3052プログラム開発」で作成したtest3052.motを焼いてみます。



「test3052.mot」のありかは「CbarによるH8-3052プログラム開発」を参照ください。

「フォースライタ」はファイルフォーマットS1, S3に自動対応します。S1形式ファイルとS3ファイルの違いの一つはアドレス幅の違いです。S1フォーマットは4桁のアドレス、つまり0000~FFFFHまでのプログラム容量の表現ができます。S3は8桁です。00000000~FFFFFFFFHまで表現できます。

下記例では有限会社イエローソフト社製「YellowIDE」環境でコンパイルし、出力をS3形式にリンクしたプログラム「test52.s」を書き込んでいるものです。「フォースライタ」は拡張子mot、sの両方に対応します。



ご注意

HEWは株式会社ルネサステクノロジ社の登録商標です。

Windowsは米国マイクロソフト社の登録商標です。

CbarはKENCH氏によるフリーソフトです。

GCC(GNU Compiler Collection)CはGNUプロジェクトによるフリーCコンパイラです。

YellowIDE、イエローソフトは有限会社イエローソフト社の登録商標です。

1. 本文章に記載された内容は弊社有限会社ビーリバーエレクトロニクスの調査結果です。
2. 本文章に記載された情報の内容、使用結果に対して弊社はいかなる責任も負いません。
3. 本文章に記載された情報に誤記等問題がありましたらご一報いただけますと幸いです。
4. 本文章は許可なく転載、複製することを堅くお断りいたします。

〒350-1213 埼玉県日高市高萩 1141-1 TEL 042(985)6982 FAX 042(985)6720

Homepage : <http://beriver.co.jp>

e-mail : support@beriver.co.jp

有限会社ビーリバーエレクトロニクス